

## 工事現場勤務 2年目で思うこと

鹿島建設(株) (H16, 修士 H18) 北原秀樹



### はじめに

私は就職活動を行う際、大学・大学院で学んだことを生かすことの出来る業界に就職したいと思い、ゼネコンを希望しました。実際にゼネコンで働いてみて、大学・大学院で学んだことを業務の中で生かしているかと聞かれれば、答えはYESです。設計業務を行う時に構造力学・土質力学・材料学等の知識を活用しますし、施工管理を行う際にも施工方法を考える上で必須です。今にして思えば、もっとまじめに授業に取り組んでおけば良かったと若干

反省しています。

### はじめでの現場勤務で戸惑ったこと

先に述べた土木工学の知識を多少身に付けていても、初めての現場ではわからないことが多いです。まず、現場若手社員へ任される仕事が測量です。学生の頃に測量学を履修したはずなのですが、測量機器の使い方がわからない、機器のセットが出来ないといった状況に恥ずかしながら陥ってしまいました。また、打ち合わせや現場で先輩・作業員が話している会話内容や土木用語の意味がわからないため、満足に打ち合わせに参加することが出来ず、現場で明確に指示することが出来ませんでした。

### これまでの現場経験を通じて

測量や土木用語の意味に関して言えば、現場で触れ合う機会が多いため、自然と覚えることができます。入社当初は、測量機器をセットするのに時間を要しますが、自然と早く正確になっていきます。私の場合、わからないことがあれば、それを恥と思わずにその都度、先輩社員や作業員に聞いてまわりました。聞いたことを自分の中で噛み砕き、自分なりに内容を理解すれば、打ち合わせの場においても自分の意見を述べる事が出来ますし、現場での指示も自信をもってすることが出来るようになったと感じています。

### 最後に

工事現場で現場社員・作業員が一丸となり、無事故で施工できたときは喜びが大きいです。数ある工種の中の一工種でこれですから、工事全体が竣工するときはもっと感慨深いものなのでしょう。私は、これこそがゼネコンの仕事の醍醐味ではないかと考えて、日々の業務に取り組んでいます。